



六郷中だより

六郷中学校だより 第5号
令和 4年 9月 7日
発行・文責：校長 深澤裕治

<六中HP>



一人ひとりが大きく成長する桜樹祭

2学期が始まり、早くも2週間ほどが過ぎました。まだまだ残暑厳しい日が続きますが、サルスベリの盛りも過ぎ、朝露や虫の音からも、夏から秋への移り変わりを少しずつ感じられるようになりました。

六郷中学校の2学期のスタートは、夏休みの生活から学校生活への切り替えを行い、9月17日の学園祭への全校生徒の取組が集中したものとなるよう「夏休みの生活の振り返りや課題の確認」「学園祭に向けての決起集会や係別の活動、体育館のステージを飾るモザイク画の全校制作」など2学期の始業としての節目となるよう、盛り沢山の活動から始まりました。

今年度、六郷中学校の学園祭の『桜樹祭』は60回目を迎えます。長きにわたる歴史の上に立ち時代とともに内容は少しずつ変遷してきていますが、全校生徒が気持ちを一つにして、若きエネルギーをもって自分たちでつくる桜樹祭への思いは、昔も今も変わらないはずで、第60回桜樹祭のテーマは「Piece×Peace」。Pieceはパズルのピースを、Peaceは平和を表し、全校生徒一人ひとりが、桜樹祭というパズルのピースとなって、力を合わせて桜樹祭のパズルを完成させ、平和への願いを込めた桜樹祭となるよう、生徒たちが考えたテーマです。コロナ禍の3年目の桜樹祭となり制約もありますが、全校生徒57名が、今年ならではの自分たちの桜樹祭の成功を目指して、前を向き、取り組んでいます。

桜樹祭は、当日までの準備や取組、そして当日の頑張りをおして、生徒一人ひとりとしても、六郷中学校の生徒集団としても、大きく成長する機会となります。言い換えれば、桜樹祭に挑む生徒には、桜樹祭の様々な場面や任された役割をおして、以前ご紹介した「勇氣 (Courage)」「挑戦 (Challenge)」「集中 (Concentrate)」「チャンス (Chance)」「体調 (Condition)」の「5つのC」が求められるとともに、生徒たちが「5つのC」を発揮し、生かすことで、大きく成長する機会となるのが、今回の桜樹祭となります。

今年度も感染防止対策として、体育館でのご参観はご家族の方2名までと制限させていただいての開催となり、大変申し訳ありませんが、ぜひとも、生徒一人ひとりの「5つのC」を発揮する姿と成長を、ご参観いただければと存じます。



深澤先生はいつもラジオ体操の後に尻をひる！？

今から20年以上前の夏休み明けの最初の3年生の理科の授業の開始早々、教壇に立つ私に向かって、満面の笑みの男子生徒から「深澤先生はいつもラジオ体操の後に尻をひる!？」とクラス中に聞こえるように話し出しました。まだ若かった私は、何を突然言い出すのかと、狼狽(ろうた)えてしまい、返す言葉が見つからないままいと、さらに男子生徒は続けます。「ね、深澤先生。いつもラジオ体操の後、毎回、毎回、お互いの家の前で手を振って、面白かったね！」。

ようやく「尻をひる」は「手を振る」の私の聞き間違いだと気づいてからは、クラス中が大笑いです。私と異なる地区に住む男子生徒は、ラジオ体操終了後の毎朝の同じタイミングに、200mほど離れていても、お互いに手を振ることで、気持ちを伝え合う毎朝のコミュニケーションがとれたことを粋(いき)に感じ、その思いを私に伝えてくれたのでした。

私にとって『あいさつの意義や気持ちを伝え合う大切さに気づかせてもらった貴重な経験』として、決して忘れることのできない六郷中学校の思い出の一つです。